

Y4海域（八代海灣口東部）の問題点と原因・要因の考察

1 この海域の特性

Y4海域(八代海灣口東部)は、八代海灣口の黒之瀬戸で東シナ海に接している海域である。村上ら(2004)によると、東シナ海との海水交換は比較的少なく、獅子島の北側では西へ、南側では東への平均流が発達している。水質については、滝川ら(2004)、田井ら(2007)によると、水温が冬季には湾奥部より高くなり、滝川ら(2004)は、6～8月の梅雨時期において降雨の影響により表層の塩分が低くなることを報告している。増田ら(2011)によると、底質は砂泥質である。

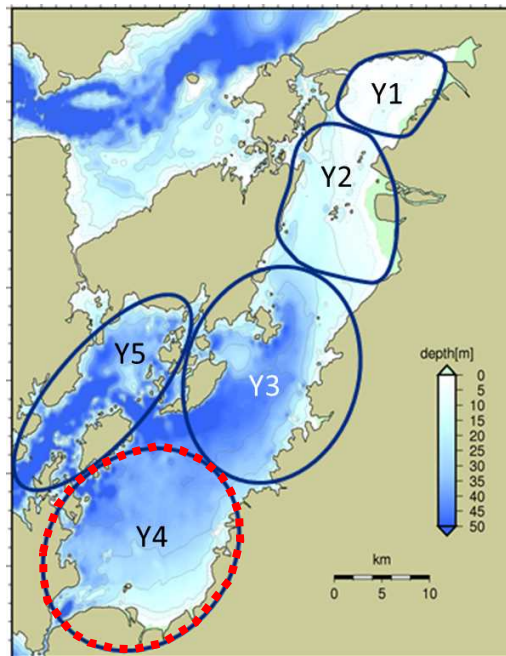


図1 Y4海域位置

当該海域の問題点とその原因・要因に関する調査研究結果、文献、報告等を整理し、問題点及び問題点に関連する可能性が指摘されている要因を図2に示す。

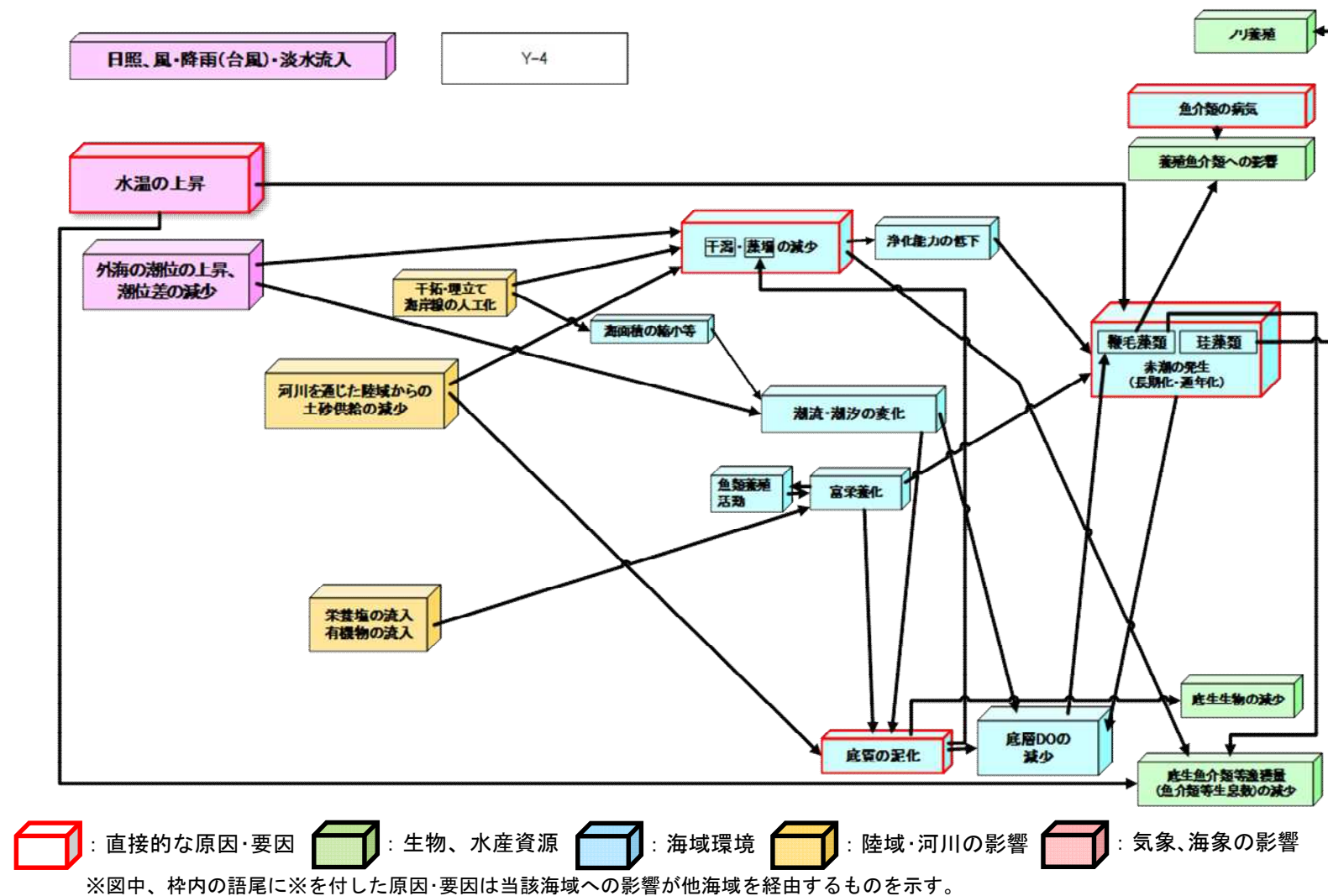


図 2 Y 4 海域(八代海灣口部東部)における問題点と原因・要因との関連の可能性

2 ベントスの減少

① 現状と問題点の特定

Y 4 海域では 1970 年ころからのベントスのモニタリング結果がないため、ここでは 2005 年以降の調査結果を確認した。図 4 に示すように、2005 年以降は Ykg-2 で個体数は総個体数に減少傾向がみられた。Ykg-3 では種類数は総種類数、環形動物で減少傾向がみられた。

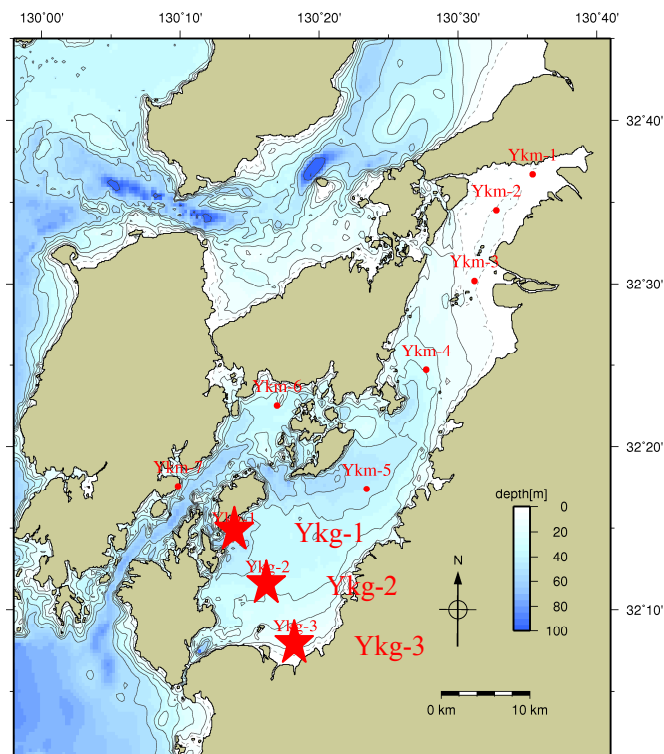


図 3 Y 4 海域におけるベントス調査地点

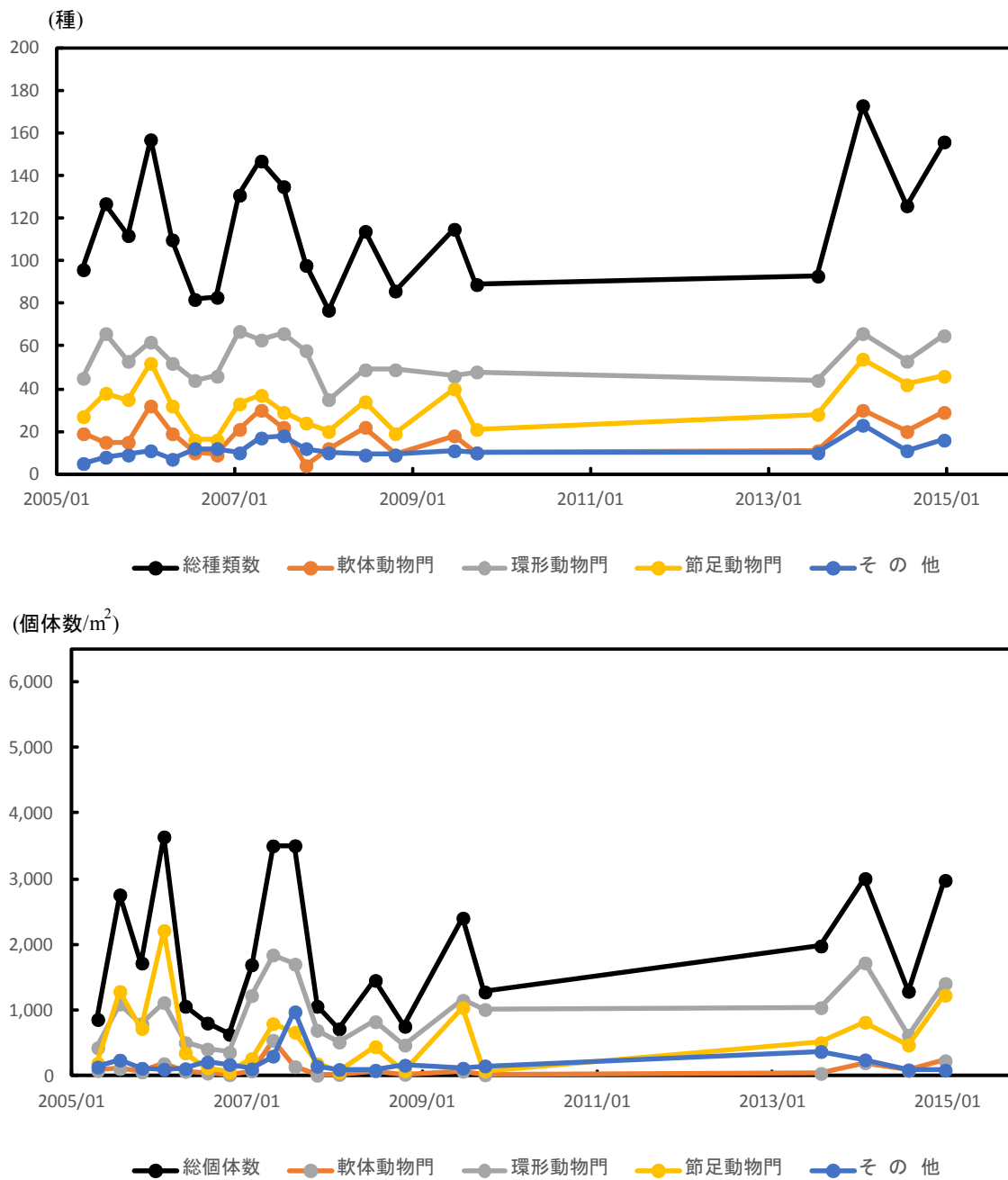


図 4(1) Y 4 海域におけるベントスの推移 (Ykg-1)

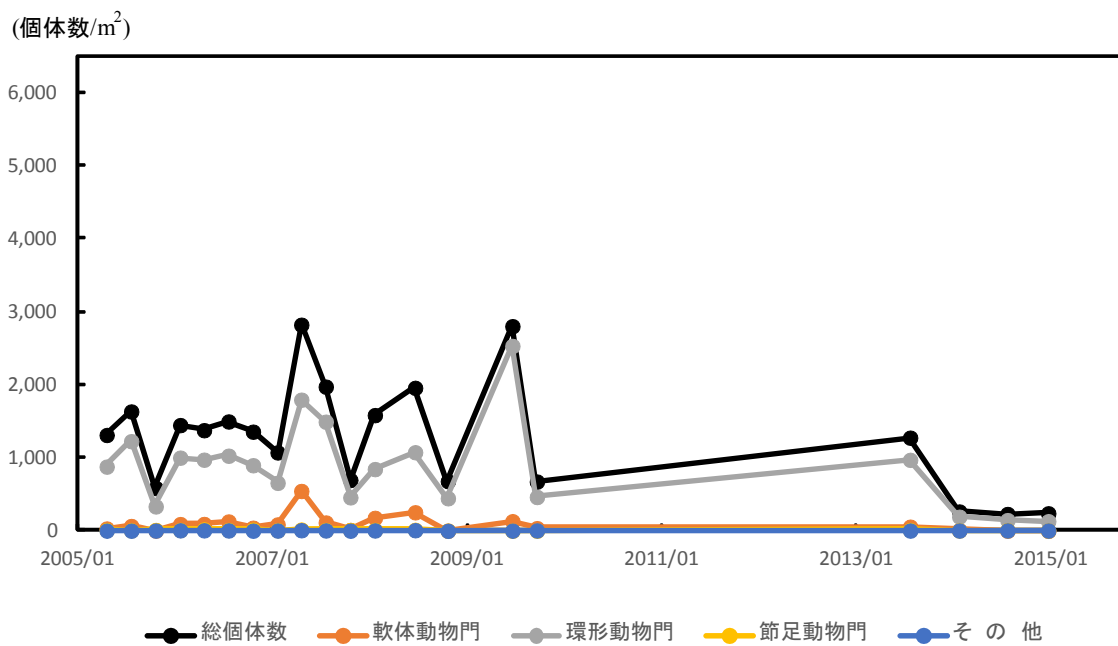
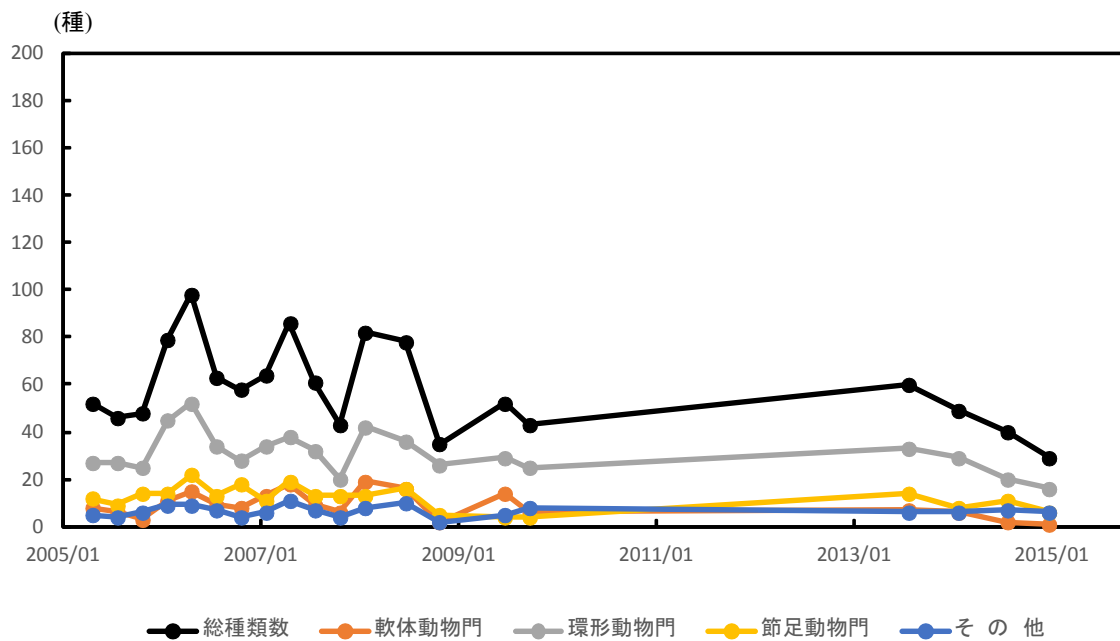


図 4(2) Y 4 海域におけるベントスの推移 (Ykg-2)

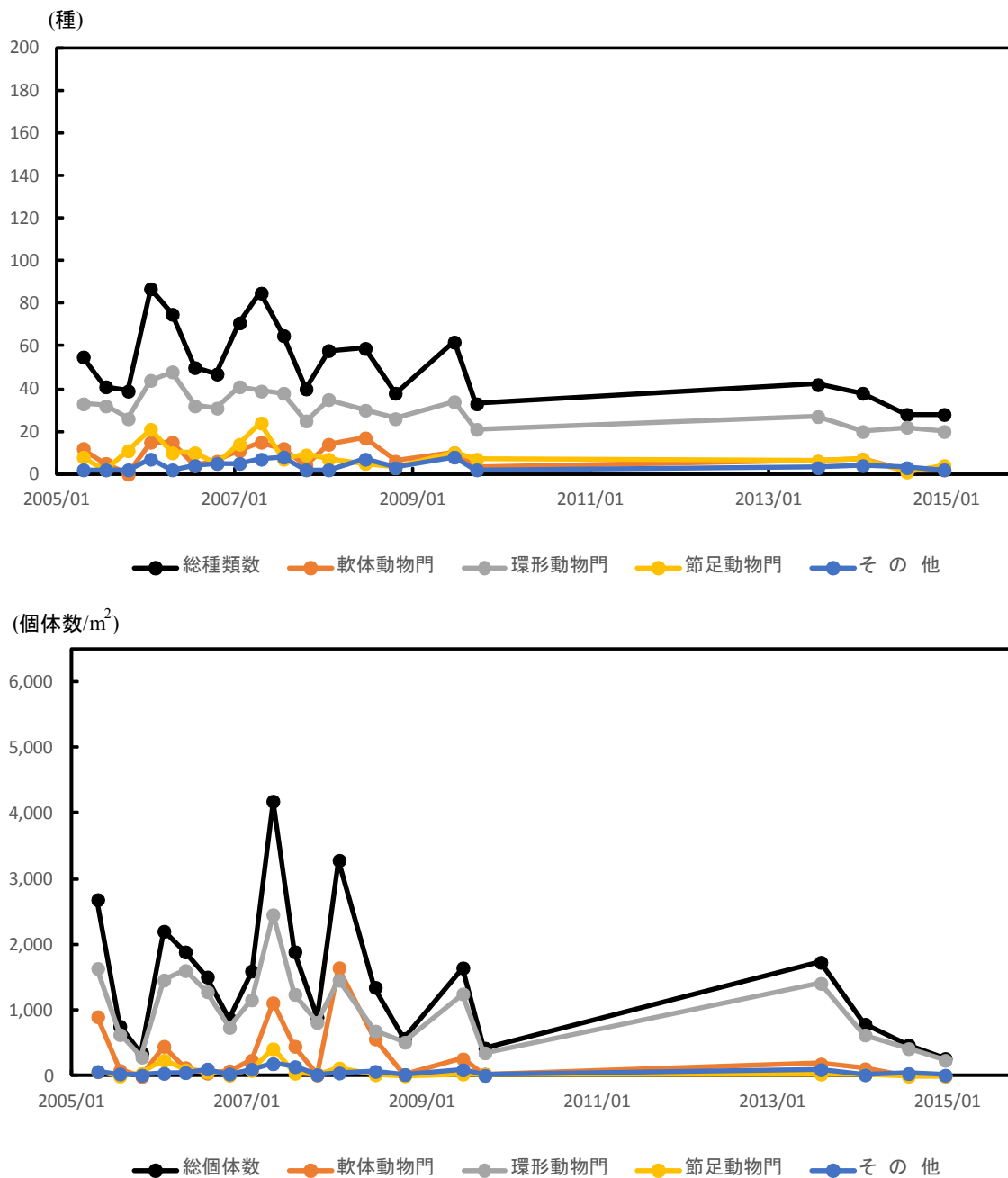


図 4 (3) Y 4 海域におけるベントスの推移 (Ykg-3)

Y 4 海域における出現主要種の変遷をみると、Ykg-1 では、節足動物、環形動物の出現頻度が高い。Ykg-2 及び Ykg-3 では、環形動物が多くを占めていた。

表 1(1) Y 4 海域におけるベントスの出現主要種の推移(Ykg-1)

		Y-4
		Ykg-1
2005/05	紐形動物門	紐形動物門
	環形動物門	Paraprionospio sp.(CI型)
	節足動物門	Ampelisca sp.
2005/08	節足動物門	ホトトリア科
	紐形動物門	紐形動物門
	節足動物門	Photis sp.
2005/11	節足動物門	イシクヨエビ科
	環形動物門/節足動物門	ハラオニス科/Ampelisca sp.
	節足動物門	ヒトツメスカメ
2006/02	節足動物門	ヒトツメスカメ
	節足動物門	ニッポンスカメ
	節足動物門	Gammaropsis sp.
2006/05	環形動物門	Paraprionospio sp.(CI型)
	紐形動物門	紐形動物門
	節足動物門	Ampelisca sp.
2006/08	紐形動物門	紐形動物門
	環形動物門	Paraprionospio sp.(CI型)
	環形動物門	ハラオニス科
2006/11	紐形動物門	紐形動物門
	環形動物門	Paraprionospio sp.(CI型)
	棘皮動物門	クモヒトデ綱
2007/02	環形動物門	Paraprionospio sp.(CI型)
	節足動物門	カイムシ目
	環形動物門	ハラオニス科
2007/05	環形動物門	Paraprionospio sp.(CI型)
	環形動物門	Paraprionospio sp.(B型)
	軟体動物門	二枚貝類 ニマイガイ綱
2007/08	線形動物門	線虫綱
	節足動物門	カイムシ目
	環形動物門	Paraprionospio sp.(CI型)
2007/11	節足動物門	カドソコシラエビ
	環形動物門	Paralacydonia paradoxa
	環形動物門	ハラオニス科
2008/02	環形動物門	Paraprionospio sp.(CI型)
	線形動物門	線虫綱
	環形動物門	アシビキツハサコガイ
2008/07	軟体動物門	二枚貝類 シスウガイ
	節足動物門	ヒサシヨエビ科
	環形動物門	Sthenolepis sp.
2008/11	環形動物門	Paraprionospio sp.(CI型)
	紐形動物門	紐形動物門
	環形動物門	Lumbrineris sp.
2009/07	環形動物門	Paraprionospio sp.(CI型)
	節足動物門	ミサキスカメ
	節足動物門	マルソコシラエビ
2009/10	環形動物門	Linopherus sp.
	環形動物門	アシビキツハサコガイ
	環形動物門	ツハサコガイ科
2013/08	環形動物門	Paraprionospio sp.(CI型)
	節足動物門	ホトトリア科
	線形動物門	線虫綱
2014/02	環形動物門	Lanice sp.
	環形動物門	Phyllochaetopterus sp.
	節足動物門	ミサキスカメ
2014/08	節足動物門	ニッポンスカメ
	節足動物門	イシクヨエビ科
	環形動物門	Eunice sp.
2015/01	環形動物門	Paraprionospio sp.(CI型)
	節足動物門	ユボソコエビ科
	節足動物門	カイムシ目

【採取方法】
 スミスマッキンタイヤ型採泥器にて 10 回採泥

【主要種の選定方法】
 年ごとに、Ykg-1 において個体数が多い順に 3 種抽出した。同数の場合は併記した。

【出典】
 H17～H25 環境省調査結果より取りまとめ

表 1(2) Y 4 海域におけるベントスの出現主要種の推移(Ykg-2)

		Y-4
		Ykg-2
2005/05	環形動物門	Terebellides sp.
	星口動物門	イトクス ^{ホムシ} 属
	環形動物門	Lumbrineris sp.
2005/08	環形動物門	Terebellides sp.
	環形動物門	Lumbrineris sp.
	星口動物門	イトクス ^{ホムシ} 属
2005/11	星口動物門	イトクス ^{ホムシ} 属
	環形動物門	Magelona sp.
	環形動物門	Sigambra tentaculata
2006/02	環形動物門	Magelona sp.
	環形動物門	Lumbrineris sp.
	星口動物門	イトクス ^{ホムシ} 属
2006/05	環形動物門	Lumbrineris sp.
	環形動物門	イトコ ^{カイ} 科
	環形動物門	Sigambra tentaculata
2006/08	環形動物門	Prionospio sp.
	環形動物門	Lumbrineris sp.
	星口動物門	イトクス ^{ホムシ} 属
2006/11	星口動物門	イトクス ^{ホムシ} 属
	環形動物門	Lumbrineris sp.
	環形動物門	Sigambra tentaculata
2007/02	環形動物門	Sigambra tentaculata
	星口動物門	イトクス ^{ホムシ} 属
	環形動物門	キ ^ホ シ ^イ 科
2007/05	軟体動物門 二枚貝類	ニマ ^イ 綱
	環形動物門	キ ^ホ シ ^イ 科
	環形動物門	Lumbrineris sp.
2007/08	環形動物門	Lumbrineris sp.
	環形動物門	Sigambra tentaculata
	環形動物門	Mediomastus sp.
2007/11	星口動物門	イトクス ^{ホムシ} 属
	環形動物門	Sigambra tentaculata
	環形動物門	Lumbrineris latreilli
2008/02	星口動物門	イトクス ^{ホムシ} 属
	環形動物門	Paralacy donia paradoxa
	環形動物門	Sigambra tentaculata
2008/07	環形動物門	ウ ^ロ コ ^シ 科
	軟体動物門 二枚貝類	ユ ^ウ カ ^グ ハ ^マ グ ^リ 属
	刺胞動物門	ウ ^シ カ ^グ キ ^カ 科
2008/11	星口動物門	イトクス ^{ホムシ} 属
	環形動物門	Paralacy donia paradoxa
	環形動物門	Sigambra tentaculata
2009/07	環形動物門	Terebellides sp.
	環形動物門	Paralacy donia paradoxa
	星口動物門	イトクス ^{ホムシ} 属
2009/10	環形動物門	Sigambra tentaculata
	星口動物門	イトクス ^{ホムシ} 属
	環形動物門	Paralacy donia paradoxa
2013/08	環形動物門	Lumbrineris sp.
	環形動物門	Sigambra tentaculata
	環形動物門	Paralacy donia paradoxa
2014/02	環形動物門	Paralacy donia paradoxa
	環形動物門	Lumbrineris sp.
	環形動物門/環形動物門/ 星口動物	Magelona sp. /Notomastus sp. /イトクス ^{ホムシ} 属
2014/08	星口動物門	イトクス ^{ホムシ} 属
	環形動物門	Sigambra tentaculata
	環形動物門/環形動物門	Lumbrineris sp./Magelona sp.
2015/01	星口動物門	イトクス ^{ホムシ} 属
	環形動物門	Magelona sp.
	環形動物門	Sigambra tentaculata

【採取方法】
スミスマッキンタイヤ型採泥器にて 10 回採泥

【主要種の選定方法】
年ごとに、Ykg-2 において個体数が多い順に 3 種抽出した。同数の場合は併記した。

【出典】
H17～H25 環境省調査結果より取りまとめ

表 1(3) Y 4 海域におけるベントスの出現主要種の推移(Ykg-3)

		Y-4	
		Ykg-3	
2005/05	軟体動物門	二枚貝類	シズクガイ
	環形動物門		Prionospio sp.
	環形動物門		シロガネコガイ科
2005/08	環形動物門		Sigambra tentaculata
	環形動物門		ミスヒキコガイ科
	環形動物門		Chaetozone sp.
2005/11	環形動物門		ミスヒキコガイ科
	環形動物門/環形動物門		Parapriospio sp.(B型) /Magelona sp.
	環形動物門		Chaetozone sp.
2006/02	軟体動物門	二枚貝類	シズクガイ
	環形動物門		Mediomastus sp.
	環形動物門		Prionospio sp.
2006/05	環形動物門		Chaetozone sp.
	環形動物門		Tharyx sp.
	環形動物門		Sigambra tentaculata /タケアノコガイ科
2006/08	環形動物門		Sigambra tentaculata
	環形動物門		Chaetozone sp.
	環形動物門		Lumbrineris longifolia
2006/11	環形動物門		Lumbrineris longifolia
	環形動物門		Mediomastus sp.
	環形動物門		Chaetozone sp.
2007/02	環形動物門		Lumbrineris longifolia
	環形動物門		イトコガイ科
	環形動物門		Sigambra tentaculata
2007/05	軟体動物門	二枚貝類	ニマイガイ綱
	環形動物門		Lumbrineris longifolia
	環形動物門		Nephtys sp.
2007/08	環形動物門		Sigambra tentaculata
	軟体動物門	二枚貝類	スエモノガイ科
	軟体動物門	二枚貝類	ニマイガイ綱
2007/11	環形動物門		Lumbrineris longifolia
	環形動物門		Lumbrineris sp.
	環形動物門		Prionospio sp.
2008/02	軟体動物門	二枚貝類	ケントリガイ
	環形動物門		Sigambra tentaculata
	環形動物門		Lumbrineris longifolia
2008/07	環形動物門		Streblosoma sp.
	刺胞動物門		ウミサカツキガイ科
	軟体動物門		アマフラン科
2008/11	環形動物門		Lumbrineris longifolia
	環形動物門		Sigambra tentaculata
	環形動物門/環形動物門		Magelona sp. /Mediomastus sp.
2009/07	環形動物門		Lumbrineris longifolia
	環形動物門		Sigambra tentaculata
	軟体動物門	二枚貝類	スエモノガイ科
2009/10	環形動物門		Lumbrineris longifolia
	環形動物門		Sigambra tentaculata
	軟体動物門	二枚貝類	スエモノガイ科
2013/08	環形動物門		Lumbrineris longifolia
	環形動物門		エーレンシスビオ
	環形動物門		Terebellides sp.
2014/02	環形動物門		Lumbrineris sp.
	環形動物門		Prionospio sp.
	軟体動物門	二枚貝類	ホトキスガイ
2014/08	環形動物門		Lumbrineris longifolia
	環形動物門		Sigambra tentaculata
	環形動物門/環形動物門		モロテコガイ/Magelona sp.
2015/01	環形動物門		モロテコガイ
	環形動物門		Lumbrineris sp.
	環形動物門		Sigambra tentaculata

【採取方法】
スミスマッキンタイヤ型採泥器にて 10 回採泥

【主要種の選定方法】
年ごとに、Ykg-3 において個体数が多い順に 3 種抽出した。同数の場合は併記した。

【出典】
H17～H25 環境省調査結果より取りまとめ

② 要因の考察

底質の泥化については、細粒化の観点から整理を行うこととした。1970年ころからの底質のモニタリング結果がないため、ここでは2003年以降の調査結果から要因の考察を行うこととした。粘土シルト分はYkg-1で減少傾向がみられた。CODはYkg-2、Ykg-3で増加傾向であった。(図5参照)。

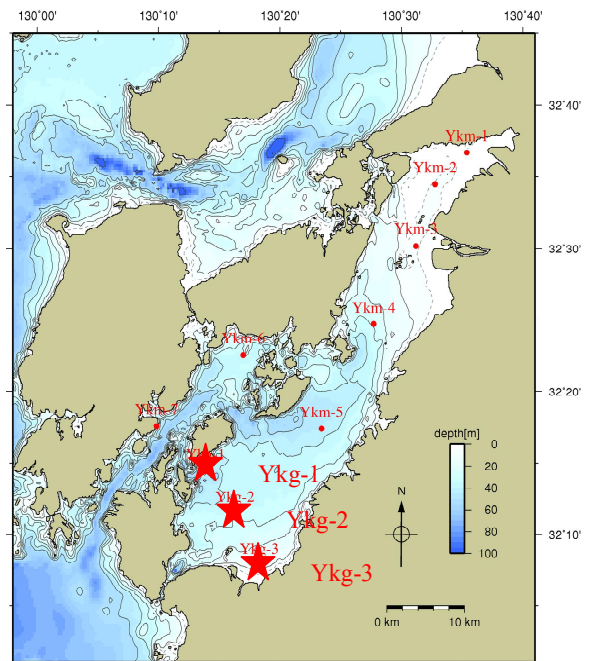
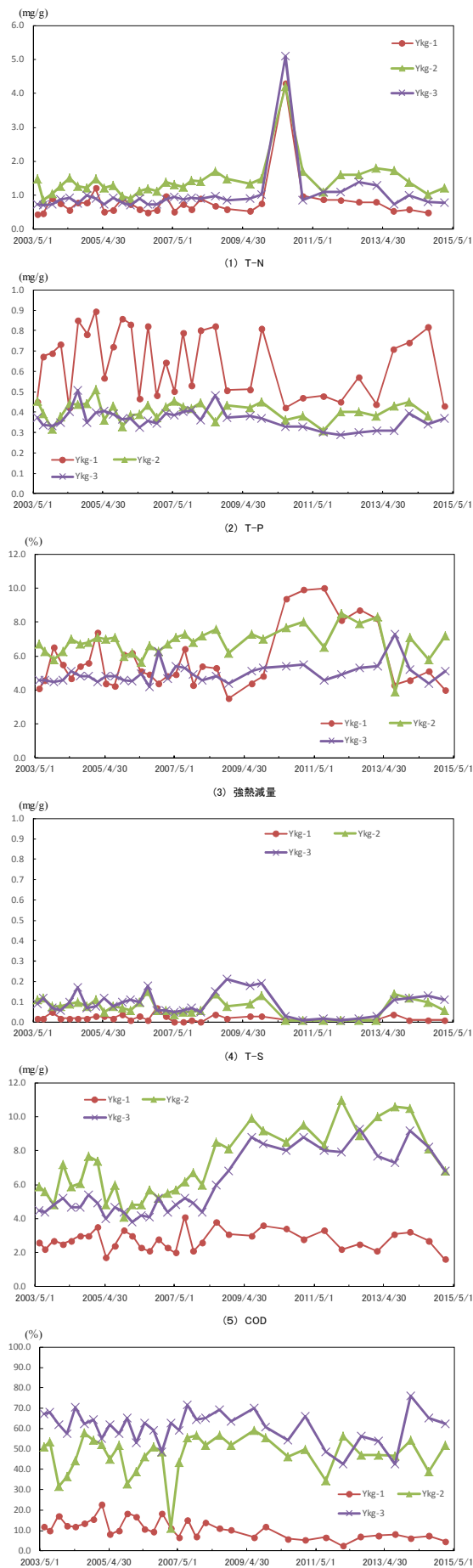


図 5 Y 4 海域における底質の推移(図 3 ベントス調査地点と同じ)

(まとめ)

ベントス調査結果については、2004年以前のデータがない。

調査結果データがある2005年以降においては、Ykg-2で総個体数に減少傾向がみられた。Ykg-3では総種類数、環形動物に減少傾向がみられた。

底質については、2002年以前のデータがない。

調査結果データがある2003年以降においては、粘土シルト分はYkg-1で減少傾向がみられた。CODはYkg-2、Ykg-3で増加傾向がみられた。